

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
越前市	文室町	令和2年2月	平成27年3月

集落座談会：令和2年1月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	22.3 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	11.5 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	1.1 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.7 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.3 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.0 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模農家が多い。農業従事者の高齢化が加速している。耕作放棄地が増加している。 ・圃場区画が狭いため、大型機械の使用が困難であり、担い手から耕作を断られる。 ・カントリーの受け入れ時期が短いため、受け入れ時期に合わせるために収穫適期になる前に刈り取りをせざるを得ないことがあった。中央カントリーしかなく、文室から遠い。 ・獣害の被害が多い。 ・担い手に耕作を任せた後は、畦・土手の草刈りなど農地の保全・管理をしない地主がおり、それが原因で契約更新がなされないケースがある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

担い手に耕作を任せた後でも、地主をはじめ、地域全体で草刈りなどできることは協力することで、担い手が長く耕作してくれる環境をつくる。
栽培作物のブランド化により、文室でしか出せないモノ・味の創出を目指す。文室の農地の特徴として、扇状地であるため水はけが良いこと、水が冷たいこと、隔離された場所であることが挙げられる。水が冷たいことで、作物はゆっくりと実る。また、閉鎖的な地理特性なので、無農薬野菜の栽培を徹底できる。結果として、例えば農薬に含まれるアレルギーを起こす物質を排除した作物、といった差別化を図れる。こうした地域の特性を活かした営農の継続と農業所得の向上を図りながら、農地を維持していくことにより、長期的な視点で農地の集約化を目指す。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向			備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲	
認農	認定農業者A	水稲	0.0 ha	水稲	0.0 ha		
認農	認定農業者B	水稲	0.4 ha	水稲	0.4 ha		
認就	認定就農者C	水稲	0.0 ha	水稲	0.0 ha		
集	集落営農組織A	水稲	0.9 ha	水稲	0.9 ha		
計	4人		1.3 ha		1.3 ha		

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>文室の地理的特性を活かした、環境にやさしい米づくりや米のブランド化を目指し、関係機関(県・市・JA)の協力を得ながら、生育体制の見直しを図るとともに、栽培技術や営農方策を習得する。</p>